

活用につながる説明文の授業づくりに関する研究

— 読みの観点と教材の特性をいかして —

東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	川 畑 秀 成
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	大 塚 健太郎
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	片 山 順 也
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	片 山 守 道
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	細 川 太 輔
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	吉 永 安 里

目 次

1. 研究テーマの設定	80
1. 1. 研究テーマ設定の理由	80
1. 2. めざす子どもの姿	80
2. 研究の手だて	80
2. 1. 研究の重点	80
2. 2. 研究の視点	80
2. 3. 具体的な手だて	81
2. 4. 現行教科書説明的文章教材一覧表の作成	81
3. 研究の成果と今後の課題	82
3. 1. 読みの観点を設定して	82
3. 2. 現行説明的文章教材一覧表を作成して	82
3. 3. 今後の課題	83

活用につながる説明文の授業づくりに関する研究

— 読みの観点と教材の特性をいかして —

東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	川 畑 秀 成
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	大 塚 健太郎
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	片 山 順 也
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	片 山 守 道
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	細 川 太 輔
東京学芸大学附属小金井小学校国語科研究部	吉 永 安 里

1. 研究テーマの設定

1. 1. 研究テーマ設定の理由

価値観の多様化、情報化、国際化、少子高齢化など、社会の変化が急速に進んでいる。その中で、今、他者とコミュニケーションしながら人間関係を紡いだり、情報を適切に活用したりする国語力が一層求められている。新学習指導要領でも「言語力」という言葉が前面に押し出され、「伝え合う」ための確かな言葉の力を身につけることが、国語科の領域のみならず全般的な重要課題となっている。説明的文章を読むことの学習を通して、言葉の意味を深く考え、論理的に熟考しながら、言葉を使うことができるような子どもを育てていきたい。

一般的に説明的文章は、読者に情報を正確に、分かりやすく伝えるために、構成を練り、表現方法を工夫して作成されている。したがって、説明的文章の情報をとらえることはもちろん、その表し方にも目を向けることで、児童の言語活動に「活用」できるものを多く手に入れることができると考える。

そこで、学んだことを国語科の学習の中や国語科以外の学習で、さらには、日常生活に生きてはたらかせることを「活用」ととらえ、説明的文章を読むことを単なる本文の読解のみに終わらせることなく「活用」につながる説明的文章の学習をつくっていききたいと考えた。

1. 2. めざす子どもの姿

以上のことから、国語科としてめざす児童像を「言葉の意味や効果などを意識し、進んでより確かで豊かな言語生活をつくらうとする子ども」とし、説明的文章の授業における育てたい子ども像を、次のように考えた。

進んで説明的文章を読み、学んだことを活用しようとする子ども

2. 研究の手だて

2. 1. 研究の重点

説明的文章を読むことに絞り、以下のような点に重点を置いて研究を進めてきた。

- ①説明的文章を中心に、「判断」(評価) できる読み手を育てるための学習活動の工夫や教材の開発。
- ②PISA型読解力と関連させながら説明的文章の内容を正確に読む読みと、評価する読みのバランスについて。
- ③説明的文章の「読み」の対象や手だての整理(カリキュラム作りの観点)(活用・言語力)

2. 2. 研究の視点

説明的文章を読む場合、要点や要旨をつかみ、段落構成をつかむことは、読むことの大切な力である。しかし、それだけができただけからといって、読むことの力がついたとは言いきることはできないだろう。まず、指導者として、説明的文章において、「読み」の観点(何を読ませればよいのか)を明らかにすることが必要であ

る。そして、実態に応じて、児童にもこれらの観点を示していくことによって、より読みが深まると考える。そこで、前ページ表1の

【表1】 説明的文章の読みの観点

A	情報 …………… (題材、事例、事実と意見 等)
B	構成 …………… (順序、段落、段落構成、序論・本論・結論 等)
C	表現 …………… (語・語句の説明や使用、接続語、文末表現、文体、図表 等)
D	筆者 …………… (論理、認識、思考、思想、主張、人柄、人間性 等)

通り説明的文章の読みの観点をまとめ、より具体的な視点を下表2のように整理して考えることとした。

【表2】 主な説明的文章の読みの視点

観点	読みの視点	低	中	高	備考
A 情報	○題材とおおまかな内容をとらえる	◎			
	○何のどんな事例かを明確にする	○	○		
	○段落内容を要約する		◎	○	
	○題名の意味を考える		◎	○	
	○事実と感想や意見とを区別し、その関係を考える		○	◎	
	○文章の内容を的確に押さえ、要旨をまとめる		○	◎	
B 構成	○時間や事柄の順序に気をつけて内容を整理する	◎			
	○段落分けをし、段落相互の関係を考える		◎		
	○おおまかな段落構成をとらえる		○	◎	
	○序論・本論・結論に分けてとらえる		○	○	
C 表現	○語・語句の意味を理解する	○	○	○	情報と関連 構成と関連 情報と関連 構成と関連 情報と関連 筆者と関連 情報と関連
	○問いかけの文をとらえる	○	○		
	○中心となる語や文をとらえる	○	◎		
	○接続語に着目し、つながり方考える	○	◎	○	
	○文末表現に着目し、内容の意味をとらえる		○	◎	
	○文体に着目し、その意図を考える			○	
○図表や挿し絵の意味を考える	○	○	○		
D 筆者	○まとめの文を見つける	○	○		
	○筆者の思考の展開をとらえる		○	○	
	○筆者の主張をとらえる		○	◎	
	○筆者の人柄や人間性にふれる			○	
	○筆者の論理展開や表現の仕方を吟味する			○	
	○内容や筆者の考えに対する自分の考えを明確にする			◎	

2. 3. 具体的な手だて

例えば、説明的文章の学習を通して評価できる読み手を育てるべきだといって早急に低学年の段階から行っても、なかなか効果は期待できない。やはり、低学年は具体で思考する段階だけに文章に出てくる「情報」の具体的な事柄に興味関心を示す。抽象的に思考ができるのは中学年以上であろう。このように発達段階を考慮して単元を組んでいくことが必要である。そこで、系統的に指導できるよう、次ページ表3のような整理を試みた。

なお、この「説明的文章の授業を効果的に組み立てる手だて表」から特に効果的であったいくつかの手だてについては、東京学芸大学附属小金井小学校研究紀要第31集の国語科「言葉と向き合い、愉しむ子の育成－活用につながる説明文の学習－」にて説明している。ご参照いただきたい。

2. 4. 現行教科書説明的文章教材一覧表の作成

説明的文章を読む学習を行う際に、児童の実態やつけさせたい力と使用している教科書の教材が必ずしも適当であるとは限らない。また、読みにいざなう手だてにあるように複数教材を読み比べたり簡単な説明文を提示したりする時には、適当な教材を探し出さなければならない。しかしながら、児童の実態や学習のねらいに

ふさわしい教材を、使用している教科書以外のところから探し出すには大変な労力を要する。

そこで、自主選定教材を用いた学習を行う際に有効に活用できるように、現行版（平成17年度改訂版）の小学校各社教科書の全ての説明的文章について教材分析を行い、それぞれの教材の特性を各学年毎の一覧表として整理した（次ページからの表4～表9参照）。この表には、出版社名、教材名・筆者、要旨・内容の概括、構成・表現の特徴、出典・参考資料を示し、活用できるように考えた。

3. 研究の成果と今後の課題

3. 1. 読みの観点を設定して

研究の視点として説明的文章の読みの観点や視点を設定し、指導のための具体的な手だてを整理してきた。

児童が、読みの観点の言葉を使いながら話し合いをしたり、書くことを目指して意欲的に読んだりする様子から、児童が読むことの学習を活用につなげている様子を見ることができた。

3. 2. 現行説明的文章教材一覧表を作成して

全学年にわたって説明的文章教材を整理したことで、ねらいに即した教材を検索し選定することが容易にできるようになり、比べ読みや発展教材など教材の工夫を図るのに有効な手だてとなった。

また、一覧表作成の段階で各教材を読みこんだことが幅広い教材研究につながったことも一覧表を作成した成果の一つに挙げられる。

【表3】 説明的文章の授業を効果的に組み立てる手だて表

情報	構成	表現	手だて	低	中	高	備考
○	○	○	「読み」にいざなう 複数の教材の比べ読み 簡単な説明文の提示 自作教材文の提示 児童が書いた作文を教材化	○	○	○	選ぶ教材によって効果は変わる 他社教科書や他学年教材の活用
○	○	○	「読み」をつくる 読みの観点を示す 文章構成図を作る 初発の感想→課題作り 段落ごとに一行にまとめる ペープサート 動作化 小グループでの話し合い ノートの交流		○	○	ズームイン・ズームアウト「素材」「調理法」「味付け」
○	○	○	筆者想定法 写真・さし絵を読む 図表を読む	○	○	○	筆者になったつもりで意図を考える
○	○	○	「読み」を生かす 紙芝居作り 視点を変えてリライトする 書評を書く 関連テーマ調べ→レポート →本作り 説明文を書く 筆者の立場で感想を書く	○	○	○	順序や段落構成の学習に

3. 3. 今後の課題

これらの活用する力は、他教科や日常生活においてはたらかせてほしいものであるが、今回の研究ではそこまでを追うことはできていない。今後は、教科内における活用だけでなく、教科外や日常生活においても有効に活用できる言葉の力を目指していくことが、国語科に求められていることであろう。

【表 4】 第 1 学年現行教科書説明的文章教材一覧

[文責：大塚健太郎]

社	教材名 / 筆者	要 旨・内容の概括	構成・表現の特徴	出典・参考資料
教育出版	『なにが、かくれているのでしょう』	しゃくとりむしとコノハチョウがバラの木と枯れ葉の中にかくれている様子を写真と共に紹介している。	事例羅列型 呼びかけ-問い-答え 答えくり返し型	写真：海野和男写真事務所より
	『はたらくじどう車』	バス・コンクリートミキサー車・ショベルカー・ポンプ車を使い、車の作りと使い道について紹介している。	事例羅列型 話題掲示-事例	平尾収・上の喜一郎監修「自動車・船」(学習研究社)「はたらく自動車」 高島鎮雄(小学館) 参考
	『みぶりでつたえる』 野村 雅一	身ぶりの機能を、言葉を伝えるものと気持ちを伝えるもの、言葉を越えるものに分けて説明している。	多事例説明型 事例-まとめ	教科書のための書き下ろし
光村図書	『いろいろなくちばし』 村田 浩一	くちばしの特徴を写真と共に説明し、そのくちばしをもった鳥がどのようにそれを使うかを解説している。	事例羅列型 説明-問い-解説 問答くり返し型	教科書のための書き下ろし
	『じどう車くらべ』	車の仕事と作りについて、バス・乗用車・トラック・クレーン車を使って説明している。	事例羅列型 問いかけ-事例 文の構成が同じ	編集者書き下ろし
	『ものの名まえ』	果物と魚を使い、上位語下位語の概念とももの名前について説明している。	問答型 事例-事例-まとめ なぞなぞ形式	編集者書き下ろし
	『どうぶつ赤ちゃん』 増井 光子	ライオンとしまうまの赤ちゃんの産まれたばかりの時の様子とその後大きくなる様子を対比的に描いている。	2 事例比較型 問い-事例1-事例2 肉食草食の代表	教科書のための書き下ろし 「動物の親は子をどう育てるか」(どうぶつ社) 参
東京書籍	『どうぶつのはな』 小宮山 浩	鼻の特徴を写真と共に説明し、その鼻をもった動物がどのようにそれを使うかを解説している。	事例羅列型 問い-答え-解説 問答くり返し型	教科書のための書き下ろし 「動物はえらい」 (1997 講談社) 参考
	『いろいろなふね』	船の機能とその作りを、客船、フェリーボート、漁船、消防艇を使って説明している。	事例羅列型 機能-つくり-補足 尾括型	編集者書き下ろし 「大人と子どものあそびの教科書 総合学習に役立つ世界のじゃんけん」(田中ひろし著 今人舎)
	『じゃんけん』	じゃんけんが、どのような構造になっているか石・はさみ・紙の比喩を使い解説している。	1 事例説明型 問い-説明-まとめ 尾括型	編集者書き下ろし
学校図書	『いきもののあし』	足の特徴を写真と共に説明し、その足をもった動物がどのようにその良さを享受しているかを解説している。	事例羅列型 問い-答え-解説 問答くり返し型	編集者書き下ろし 「いきものの手とあし」(ポプラ社大木邦彦著) 参考に
	『まめ』	豆が種であることを説明し、その豆が育ち、新しい豆(種)ができるまでを順を追って説明している。	1 事例説明型 話題-解説-まとめ 順序追求型	編集者書き下ろし
	『おにごっこ』	鬼ごっこのいろいろな遊び方を、影踏み・かくれんぼ・手つなぎ鬼で紹介している。	事例羅列型 話題-事例-呼びかけ	教科書のための書き下ろし (玉川こどもきょういく百科「あそびとおもちゃ」を元に)
大阪書籍	『だいなたまご』	卵を産む場所の違いとその理由を、つばめ、いしがめ、あげはの3種を使って説明している。	事例羅列型 話題-問いかけ-答え 答えくり返し型	編集者書き下ろし
	『たねのたび』	たんぼぼ、おなもみ、ななかまどがどうやって種を蒔く範囲を広げるかを、種の旅と見立てて説明している。	多事例説明型 話題-事例-まとめ 尾括型	編集者書き下ろし
	『かみコップ人ぎょう』 木村 研	図とともに紙コップを使った動くおもちゃの作り方を順序立てて説明している。	作り方解説 呼びかけ-作り方-遊び方 非連続型テキストを含む	教科書のために書き改め「かたん手づくりおもちゃチャイルドランド」

【表5】 第2学年現行教科書説明的文章教材一覧

〔文責：細川 太輔〕

社	教材名／筆者	要旨・内容の概括	構成・表現の特徴	出典・参考資料
教育出版	『すみれとあり』 矢間 芳子	すみれの花が石垣の隙間などにさく過程を、ありとの関係で説明している。	1事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『すみれとあり』 矢間 芳子 (福音館書店)
	『鳥のちえ』 樋口 広芳	からす、ささごい、やまがらの3種類の鳥が食べものをとるための工夫を説明している。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『鳥たちのふしぎ・不思議』 加藤幸子・島田瑠璃・浜田剛爾・樋口広芳 (昌文社)
	『さけが 大きくなるまで』	さけの親が卵を産みくるところから、海に出るまで、さけが大きくなるまでの過程を説明している。	1事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『さけ＝母なる川に帰る』 桜井 淳史 (平凡社)
	『きつつき』	おもちゃの「きつつき」を作る過程を、注意事項などにもふれながら見出しに沿って説明している。	説明書 材料－作り方－動かし方－遊び方	『手作りおもちゃ箱』 木村隆一 (ほるぷ出版)
光村図書	『たんぼのちえ』 植村 利夫	たんぼぼがなかまをふやしていく過程を、花、実、綿毛の順で説明している。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『えほん・フォトかみしばい(6) タンポポ』 七尾純 (あかね書房)
	『サンゴの海の 生きものたち』 本川 達夫	サンゴ礁でイソギンチャク、クマノミ、ホソメワケベラがかかわりあって生きていることを説明している。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『サンゴの海の生きものたちサンゴ礁の生物たち－共生と適応の生物学』 本川達雄 (中央公論社)
	『一本の木』 岩崎 清	ムナーリの木の書き方と、木の枝の様々なわかれ方があることを説明している。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『太陽をかこう』 ブルーノ＝ムナーリ須賀敦子 (訳) (至光社)
	『音やようすを あらかずことば』	音や様子を表す言葉の違いや、よくつかわれる場面について説明している。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	編集者書き下ろし
東京書籍	『たんぼぼ』 平山 和子	たんぼぼがなかまをふやしていく過程を、根、花、実、綿毛の順で説明している。	1事例説明型 説明－答え 尾活型	『たんぼぼ』 平山和子 (福音館書店)
	『糸で生きる虫たち』 小川 宏・松山 史郎	糸を上手に使っている虫として、カイコガ、アオバセセリ、ハネナシコロギス、ホシミスジを説明している。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『糸で生きる虫たち』 松山史郎 小川 宏 (大日本図書)
	『ビーバーの大作』 中川 志郎	木を切るところから、巣を作るまで、ビーバーがダムを作る過程や理由を説明している。	1事例説明型 問いかけ－説明－答え 尾活型	教科書のための書き下ろし
	『せかいのかくれんぼ』 大貫 美佐子	かくれんぼに似た遊びとして、フィンランドのハンター、インドネシアのプンタックウンブットを紹介する。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『国際理解にやくだつ世界の遊び』 シリーズ 大貫美佐子 (ポプラ社)
学校図書	『ほたるの一生』 佐々木 崑	ほたるが卵を産んで、また成虫になってきれいに光るまでの過程を説明している。	1事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『ホタルの一生』 佐々木 崑 (フレーバル館)
	『あいさつの みぶりとことば』	あいさつのみぶりと言葉について、日本と外国では異なるが、心と心をつなぐものであることは変わらない。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	編集者書き下ろし
	『うごく虫を作ろう』	おもちゃの「うごく虫」を作る過程を、注意事項などにもふれながら見出しに沿って説明している。	説明書 材料－作り方－動かし方－遊び方	編集者書き下ろし
大阪書籍	『すなはまに上がった アカウミガメ』 中東 覚	アカウミガメが、卵を産みにくる過程を、砂浜にあがるところから、卵を埋めるところまで説明している。	1事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『私のウミガメ、もどっておいで』 中東 覚 (文溪堂)
	『はしの話』	昔から今までの様々な橋の形態と進歩の過程を、文と写真で説明している。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	
	『どんぐりと どうぶつたち』 こうや すすむ	どんぐりが広がっていく過程を、リスやネズミなどの動物たちとの関連から説明している。	1事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『かがくのとも傑作集 どんぐり』 こうや すすむ (福音館書店)
	『道具』 加古 里子	様々な道具と、その役割について説明をしている。	多事例説明型 問い－説明－まとめ 尾活型	『どうぐ』 加古 里子 (瑞雲舎)

【表6】 第3学年現行教科書説明的文章教材一覧

〔文責：吉永 安里〕

社	教材名／筆者	要旨・内容の概括	構成・表現の特徴	出典・参考資料
教育出版	『めだか』 杉浦 宏	めだかの敵からの身の守り方や、自然の厳しさに耐える体の仕組みについて解説している。	多事例解説型 問いかけ－説明 尾括型	『杉浦宏の魚の話（全6巻）』 杉浦宏（岩波書店）
	『森の スケーターやまね』 湊 秋作	やまねが、長い間森で生きのびてこられた理由について解説し、やまねの住む森を守るよう訴えている。	一課題多例示型 問いかけ－説明－主張 尾括型	『森のスケーター ヤマネ』 湊秋作（文研出版）
	『広い言葉、 せまい言葉』 福沢 周亮	上位概念と下位概念について、トンボ→こん虫→動物→生物と例を挙げながら解説している。	紹介型 問いかけなし解説文 尾括型	『国語教育・カウンセリングと一般意味論』井上尚美・福沢周亮（明治図書）
	『くらしと絵文字』 太田 幸夫	絵文字がくらしの中で使われている理由について解説し、絵文字の有用性について述べる。	一課題多例示型 尾括型	『記号の図鑑』太田幸夫共著（あかね書房）
光村図書	『ありの行列』 大滝 哲也	ありが行列をつくる理由を、観察や実験を通して検証している。	仮説検証型 問いかけ－実験－研究－結論 尾括型	『アリの一日』馬場喜敬監・栗林慧写真（偕成社）
	『分類』<資料>	分類の有用性と様々な分類の仕方について述べ、分類には分けた人のものの捉え方が表れることを述べる。	一課題の多面的分析 問いかけなし解説文 尾括型	『月刊たくさんのふしぎ分類ごっこ』森毅（福音館書店）
	『すがたをかえる大豆』 国分 牧衛	大豆がどのように手を加えられ、おいしく食べる工夫がされているか、昔の人の知恵について解説する。	一課題多例示型 問いかけなし解説文 双括型	『そだてて遊ぼう－ダイズの絵本－』国分牧衛（農山漁村文化協会）
東京書籍	『自然のかくし絵』 矢島 稔	様々な昆虫の保護色について解説し、その保護色によって身を守る様子が述べられている。	一課題多例示型 問いかけなし解説文 双括型	『自然のかくし絵』矢島稔（偕成社）
	『道具を使う動物たち』 沢近 十九一	人間だけでなく道具を使う動物を紹介し、その動物の道具の使い方について解説する。	一課題多例示型 問いかけ－解決－まとめ 尾括型	『動物のふしぎな世界・道具をつかう動物たち』（国土社）
	『つな引きのお祭り』 北村 皆雄	日本各地で行われるつなひきのお祭りについて、各地の例をあげながら解説している。	一課題多例示型 ストーリー性をもたせて論を展開 双括型	『月刊「たくさんのふしぎ」－つな引きのお祭り－』北村皆雄（福音館）
	『もうどう犬の訓練』 吉原 順平	盲導犬が目の不自由な人のために働けるようになるまでの訓練の様子を解説している。	課題発展型 問いかけなし解説文 双括型	『盲導犬ものがたり』吉原順平（金の星社）
学校図書	『とんぼのひみつ』	身近な昆虫であるが、意外と知られていないとんぼの秘密について解説している。	一課題多例示型 問いかけ－解決 尾括型	たくさんのふしぎ傑作集『空とふ宝石トンボ』今森光彦（福音館書店）
	『ミラクルミルク』 中西 敏夫	色々な食べ物に姿を変えるミルクと、そのミルクの変身の仕方について解説している。	一課題多例示型 解説－問いかけ－解決－まとめ 尾括型	『月刊たくさんのふしぎ－みらくるミルク』中西敏夫（福音館）
	『年の始まり』 宮本 袈裟雄	1年間の安全と幸福を祈る願いのこもった年の始まりの様々な行事について解説している。	多事例解説型 問いかけなし解説 双括型	『子ども歳時記』宮本袈裟雄（桐原書店）
	『合図としるし』	合図としるしが生活の中でどのように使われているか、音・光・色・数字・形を例を挙げて解説している。	一課題多例示型 写真や絵で具体的に解説 双括型	『記号の図鑑』太田幸夫共著（あかね書房）
大阪書	『動物たちのしぐさ』 加藤 由子	身近な動物たちのしぐさをとり上げ、そのしぐさの表す意味について解説している。	一課題多例示型 写真や具体例を多く挙げて解説 尾括型	『テーマで見る動物園4動物、ことばじてん』加藤由子（クロスロード）
	『自転車の活やく』 高頭 祥八	自転車の利便性と様々な場面で活躍した様子を述べ、問題点についても自転車のよさについて説く。	話題発展型 様々な事例を挙げて解説 尾括型	『月刊たくさんのふしぎ自転車ものがたり』高頭祥八（福音館書店）
	『点字と手話』 伊藤 隆二	点字と手話について絵や図を取り入れて具体的に、かつ読者に語りかけるように解説している。	多事例解説型 呼びかけの文体 尾括型	『からだの不自由ってどんなこと？（全6巻）』伊藤隆二監修（学習研究社）

【表 7】 第 4 学年現行教科書説明的文章教材一覧

[文責：片山 順也]

社	教材名 / 筆者	要 旨・内容の概括	構成・表現の特徴	出典・参考資料
教育出版	『花を見つめる手がかり』 吉原 順平	モンシロチョウが花を見つめる手がかりは、何かについて、実験を通して分かったことを説明している。	仮説検証型 問いかけ→実験・説明 尾括型	『モンシロチョウのなぞ』（金の星社）
	『とんぼの楽園づくり』 森 清和	日本のとんぼの種類が減少している背景からとんぼ池作りの活動を紹介するとともに、自然保護にも言及。	一課題追求分析 話題提示→例示→結論 尾括型	『やってみよう！トンボ池』横 浜市環境保全局調整部環境政 策課
	『アーチ橋の仕組み』 小山田 了三	アーチ橋の強度を実験を通して説明し、石のアーチ橋の造り方や世界のアーチ橋について説明している。	一課題の多面分析 多くの写真による解説 尾括型	もの与人間の文化史66『橋』 小山田了三 法政大学出版局
	『「便利」ということ』 太田 正己	筆者の障害者としての体験を導入として、便利について、日常生活のいろいろな例示から考え、結論づけている。	一課題多例示 筆者の主張が最後に有 尾括型	岩波ジュニア新書『車イス から見た街』村田 稔 岩波 書店
光村図書	『「かむ」ことの力』 金田 洵	かむことのは、消化や健康のために大切であるばかりでなく、体にとってよいことが他にもあることを説明。	一課題多例示 話題提示→例示→まとめ 尾括型	育てようかむ力 柳沢 幸江 少年写真新聞社
	『手と心で読む』 <資料> 大島 健甫	筆者自身の失明体験から、点字へと話題を発展させて、母との心のつながりなども随筆風にまとめている。	説明文というより随筆 筆者の経験→点字説明 随想型	教科書のための書き下ろし
	『アップと ルーズで伝える』 中谷 日出	テレビのサッカー中継を例にアップとルーズの手法の長短を検討し、メディアアリテラシー的結論に至る。	二例示比較検討型 問い→比較検討→結論 尾括型	教科書のための書き下ろし
東京書籍	『ヤドカリと イソギンチャク』 武田 正倫	ヤドカリとイソギンチャクの共生関係をヤドカリの立場から実験をもとに説明し、最後にイソギンチャクの利点にも言及。	仮説検証型 問い→実験検証 尾括型	「さんご礁のなぞをさぐって —生き物たちのたたかいと助 け合い」（文研出版）
	『色さいとくらし』	人間が作り出した色彩の与える印象を赤・青・黄を例に説明し、色彩を使い豊かな暮らしをと結論づける。	一課題追求分析 話題提示→例示→結論 尾括型	編集者書き下ろし
	『ウミガメの はまを守る』 清水 達也	御前崎の様子や、ウミガメの生態を説明し、後半、ウミガメを保護する保護監視員や小学生の活動を説明。	一課題追求分析 場所→生態→保護運動 尾括型	「生命がうまれる海辺ウミガ メの浜を守る」（くもん出版）
	『くらしの中の和と洋』	暮らしの中の和と洋について、「住」をもとに、過ごし方、使い方の二面から特長を分析している。	一課題二面分析 最後に衣食について課題を提示 尾括型	編集者書き下ろし
学校図書	『地下からのおくり物』	温泉の効能や特徴を間に多くの写真を示し説明している。末尾で、わき水について触れ環境への配慮を促す。	一課題追求分析 問い→説明→主張 尾括型	編集者書き下ろし
	『あめんぼはにん者か』 日高 敏隆	あめんぼが水面に浮かぶ理由を表面張力、足の仕組みから説明し、最後に環境への警鐘を鳴らしている。	一課題追求分析 問い→説明→主張 尾括型	教科書のための書き下ろし
	『手で食べる、 はして食べる』 森枝 卓士	インドと日本の比較から手と箸での食べ方の違いから発展し、箸の種類に言及し、食文化でまとめている。	比較分析型 手と箸の比較→箸の種類 →食文化のまとめ	「たくさんのふしぎ 第158号」 （福音館書店 1998年）
	『点字を通して考える』 黒崎 恵津子	日常生活で視覚障害者のための例から導入し、点字の歴史的背景を説明した後筆者の考えを述べている。	一課題追求分析 日常生活→歴史→考え 尾括型	「点字のれきし」（汐文社 1998 年）をもとに書き下ろし
大阪書籍	『夜に鳴くセミ』 佐々木 洋	夏の風物詩であるセミの概略を述べ、その生態が近年変化してきたことを大きく2つの例で説明している。	一課題を二例から分析 「初め」「中」「終わり」 尾括型	「都市動物たちの事件簿」 （NTT出版）
	『リサイクルより たいせつなもの』 阪本 将英・田坂 節子	ごみを減らす方法をクイズ形式で説明している。クイズ3問で、リサイクルより再利用の大切さを主張。	一課題多面分析 序文→クイズ3問 横書き文章	「君たちが世界を動かす！ 子どもの経済学」（都朋社）
	『カレーの旅』 森枝 卓士	カレーが日本に伝わるまでの道のりを、ふるさとインドからイギリス、日本までを食文化と絡めて説明。	一課題追求分析 課題→英→印→日 旅を順序立てて説明	「カレーライスがやってきた」 （福音館書店）
	『進化した路面電車』 今尾 恵介	日本の路面電車から、世界に目を向けるとともに、長所短所を分析し、今後の交通のあり方について考察。	一課題多面分析 日本→世界→長短→結論 尾括型	教科書のための書き下ろし

【表 8】 第 5 学年現行教科書説明的文章教材一覧

〔文責：片山 守道〕

社	教材名 / 筆者	要 旨・内容の概括	構成・表現の特徴	出典・参考資料
教育出版	『まんがの方法』 石田 佐恵子	まんがに特有の、共通した表現方法を「まんがの方法」と呼び、まんがのおもしろさのひみつを探る。	・一課題多例示 ・問いかけ－課題解決 ・頭括型	『マンガはなぜ面白いのか』 夏目房之介 (NHK 出版 1997)
	『森を育てる炭作り』 岸本 定吉	炭作りと同時に森を保全する日本の炭焼き技術が海外で役立っている例を説明し自然との共生を訴えている。	・話題発展型 ・効能→炭作り→海外 ・尾括型	『炭の神秘』岸本定吉監修 (DHC 1994) / 『世界の炭やき 日本の炭やき』杉浦銀次 (牧野出版 1996)
	『日本語を考える』 水谷 修	日本語を学ぶ外国人の戸惑いや疑問から気づいた日本語の特徴を挙げ、日本人のものの見方・感じ方に迫る。	・一課題多例示 ・三事例とその分析 ・尾括型	『話しことばと日本人』水谷修 (創拓社 1996) / 『日本語文法の焦点』北原保雄 (教育出版 1992)
光村図書	『サクラソウとトラマルハナバチ』 鷺谷 いづみ	サクラソウの減少の原因をトラマルハナバチとの関係で説明し、生態系を維持することの重要性を訴える。	・話題発展型 ・疑問－細分－解決－まとめ ・尾括型	『マルハナバチ・ハンドブック』鷺谷いづみ他 (文一総合出版) / 『生態系を蘇らせる』鷺谷いづみ (NHK 出版 2001)
	『千年の釘にいどむ』 <文と写真・図> 内藤 誠吾	薬師寺の再建工事で釘作りを任された鍛冶職人、白鷹幸伯さんの、千年もつ釘を作るための努力と意地。	・写真で解説 ・ノンフィクション ・ドキュメンタリー	『木に学ぶ 法隆寺・薬師寺の美』西岡常一 (小学館)
	『ごみ問題ってなあに』 <資料> 嘉田 由紀子	物は人の意識の中でごみになると考え、ごみを出さない社会の例を示し、今の先進国のごみ問題に問いかける。	・考え方→例示→主張 ・ごみとは？－江戸－マラウイ－問題提起 ・尾括型	『これはたいへん！ゴミの話』 平見修二 (文研出版)
	『ニュース番組作りの現場から』 清水 建宇	ニュース番組で富士山の防災訓練が特集として取り上げられるまでの過程を例に、番組制作者の思いを説く。	・一事例解説型 ・時系列で説明を展開 ・尾括型	『ニュースの読み方使い方』 池上彰 (新潮社 2007)
東京書籍	『動物の体』 増井 光子	動物の体型・体格などの外形や体内の仕組みが気候・環境に適応していることを様々な事例を挙げて説明。	・多事例解説型 ・問いかけなし解説文 ・尾括型	『ゾウの時間 ネズミの時間－サイズの生物学』本川達雄 (中公書店 1992)
	『人はねむる、動物もねむる』 井上 昌次郎	眠ることの意義と眠るための体の仕組み、人間以外の動物たちの様々な眠りを紹介し、眠りの重要性を説く。	・話題発展型 ・語りかけ調 ・尾括型	たくさんのふしぎ 179号『人がねむる動物がねむる』井上昌次郎 (福音館書店 2000)
	『森林のおくりもの』 富山 和子	生活に欠かせない木の利用 (木材、紙、火) と森林の機能 (水や土の保持) による恵みの有り難さを説く。	・多事例解説型 ・問いかけなし解説文 ・尾括型	『森は生きている』『川は生きている』富山和子 (講談社)
	『インスタント食品とわたしたちの生活』 大塚 滋	インスタント食品が生まれた社会状況と、インスタント食品の長所と短所を挙げ、食生活への意識を促す。	・話題発展型 ・比較して長短を説明 ・尾括型	『世界のインスタント食品』 森枝卓士 (徳間書店 1993)
学校図書	『谷津干潟の生き物たち』 国松 俊英	多くの渡り鳥が来る東京湾にある谷津干潟の小さな生き物の生態を五地点の観察調査から分析考察している。	・一課題の追究分析 ・地図と写真を活用 ・尾括型・簡条書き	『わたりのくる干潟』国松俊英 (童心社 1995)
	『和紙の心』 町田 誠之	洋紙と比較しながら和紙の材料や製法、仕上がりなどを説明し、使われ方などの特長を示し、活用を訴える。	・話題発展型 ・写真で具体的に説明 ・尾括型	『紙と日本文化』町田誠之 (NHK 出版 1989)
	『心と心をつなぐ』 「もうひとつのお金」	地域通貨の使用例から、地域通貨の仕組みや運用の仕方、メリットなどを例示とともに説明している。	・一課題の多面的分析 ・写真で例示 ・尾括型・劇型事例	『だれでもわかる地域通貨入門 未来をひらく希望のお金』あべよしひろ・泉留維共著・森野栄一監修 (北斗出版 2000)
大阪書籍	『花を食べる』 小泉 武夫	花を食べるといふ食文化に隠された日本人の食べ方、使い方、味わい方などの知恵を生かすことが望まれる。	・一課題の多面的分析 ・語りかける文体 ・尾括型	『花を食べよう』六角弘・石飛君子 (大陸書房 1977) 『小泉教授が選ぶ「食の世界遺産」日本編』小泉武夫 (講談社 2007)
	『なぜ、おばけは夜に出る』<論説文> なだ いなだ	なぜ、おばけは夜に出るのかという問題から、こわさという人間のもつ感情の意味に対する考えを説く。	・主張の論理的説明 ・語りかける文体 ・尾括型	ちくま少年図書館 12 『心の底をのぞいたら』なだいなだ (筑摩書房)
	『マンガの表現を楽しむ』 竹内 オサム	マンガの表現の約束ごとの例や反例を挙げて具体的に説明し、マンガという表現の魅力を探る楽しさを説く。	・一課題多例示 ・問いかけ－課題解決 ・双括型	『マンガ表現学入門』竹内オサム (筑摩書房)
	『洪庵のたいまつ』 <伝記> 司馬 遼太郎	緒方洪庵の一生を描いた伝記。蘭方医としての思いと取り組みを松明の火に例えてその業績を讃えている。	・時系列解説型 ・作者の思いが前面に ・双括型	『二十一世紀に生きる君たちへ／洪庵のたいまつ』司馬遼太郎 (世界文化社 2001)
	『森を育てる漁師の話』 野坂 勇作	漁師が木を植えた「魚つき林」の二事例を具体的に紹介し、森や林と海との深いかわりを説明している。	・ノンフィクション・ドキュメンタリー風 ・伝聞の挿話が入る ・尾括型	たくさんのふしぎ 132号『森をそだてる漁師の話』野坂勇作 (福音館書店)

【表 9】 第 6 学年現行教科書説明的文章教材一覧

[文責：川畑 秀成]

社	教材名 / 筆者	要 旨・内容の概括	構成・表現の特徴	出典・参考資料
教育出版	『ぼくの世界、きみの世界』 西 研	他者と異なることを意識すると、不安やさびしさを伴う。だからこそ、人は伝え合う努力をするのである。	・ 話題発展型 ・ 語りかける文体 ・ 尾括型	『哲学の練習問題』西研 (NHK 出版)
	『人類よ、宇宙人になれ』 <論説> 立花 隆	人類は永遠に地球生物としてとどまるのではなく、地球外の外へ出て住める宇宙人へと至べきである。	・ 一課題追求分析型 ・ 写真を活用 ・ 尾括型	『地球の未来はショッキング!』高榎堯 (岩波ジュニア新書)
	『田中正造』<伝記> 来栖 良夫	足尾銅山鉱毒被害から農民や土地を守るために半生をささげ、権力と正義の狭間に生きた正造の生涯。	・ 時系列記述型 ・ 地図、写真、絵を多用	『田中正造の生涯』林竹二 (講談社現代新書)
光村図書	『生き物はつながりの中に』 中村 桂子	ロボットとの比較によって生き物が変化成長し、生命としてつながっている特徴をもつことを明らかにする。	・ 一課題追求分析型 ・ 問いかけ一課題解決 ・ 尾括型	『生きものの感覚』で生きる』中村桂子 (講談社)
	『森へ』<文と写真> 星野 道夫	南アラスカからカナダへと続く原生林へ入っていく筆者の見た、聞いた感じたものを描写している。	・ ノンフィクション・ドキュメンタリー風 ・ 写真を多用 ・ 五感に関する記述	『アラスカたんけん記』星野道夫 (福音館書店)
	『多くの人が 使えるように』<資料> 古瀬 敏	事例を多く挙げ、ユニバーサルデザインの必要性と考え方の重要性を説明している。	・ 一課題多例示型 ・ 写真を多用 ・ 尾括型	『バリアフリーの時代』古瀬敏 (都市文化社)
	『平和のとりでを築く』 大牟田 稔	原爆ドームが世界遺産に登録されたわけを、事実をもとに解説している。	・ 一事例解説型 ・ ノンフィクション・ドキュメンタリー風 ・ 回想の挿話が入る	『原爆の絵』広島平和記念資料館編 (岩波書店)
東京書籍	『イースター島にはなぜ森林がないのか』 鷺谷 いづみ	森林破壊とラットによって島に森林がなくなったことを通して、子孫のための文化のあり方を示唆している。	・ 一課題追求分析型 ・ 問いかけ一課題解決 ・ 尾括型	『生態系を蘇がえらせる』鷺谷いづみ (NHK 出版)
	『マンモス絶滅のなぞ』 後藤 和文	人間の乱獲と地球温暖化によるマンモスの絶滅は、人間の生き方の未来を示唆している。	・ 一課題追求型 ・ 問いかけ一課題解決 ・ 尾括型	『マンモスが現代によみがえる』後藤和文 (KAWADE 夢新書)
	『言葉の意味を追って』	広辞苑ができるまでに膨大な作業を行った新村父子の辞典作りにかかる思い。	・ 話題発展型 ・ ノンフィクション・ドキュメンタリー風	『国語辞典はこうして作る』松井栄一 (新宿書房)
	『百年前の未来予測』 横田 順彌	百年前に予測した記事の内容が現在に酷似していることから、百年後の未来を予測することを提言している。	・ 多事例解説型 ・ 写真を多用 ・ 最後に提言している	『百年前の二十世紀』横田順彌 (インターメディア出版)
学校図書	『自分の脳を自分で育てる』 川島 隆太	実験を通して、人が見聞きし、考えることができるのは脳の各部の働きによることを解き明かしている。	・ 一課題多面的分析型 ・ 実験結果から分析 ・ 双括型	『笑う言葉で脳はさえる』川島隆太 (青萌堂)
	『エネルギー消費社会』 高木 仁三郎	測定したデータをもとに、日本がいかに高エネルギー消費社会であるかを解き明かしている。	・ 話題発展型 ・ グラフを多用 ・ 尾括型	『エネルギーを考える』高木仁三郎 (岩崎書店)
	『アジアを見つめる、アジアから考える』 榎井 縁	地理面、文化面、歴史面、産業面から日本がアジアの一員であることを認識させている。	・ 話題発展型 ・ 写真を多用 ・ 尾括型	『アジアの友だち』榎井縁 (ブレーンセンター)
大阪書	『川の自然』 小野 有五	治水のために川を工事することによって失われた魚や虫や鳥たちのすみかを復活しようと提言している。	・ 一事例解説型 ・ 図や写真を多用 ・ 尾括型	『川との出会い』小野有五 (岩波書店)
	『外国の人と理解し合うために』 佐竹 秀雄	外国の人と理解し合うためには、異なる見方や考え方を受け入れる心のよわらかさが大切である。	・ 一課題多例示型 ・ 二事例とその分析 ・ 尾括型	『サタケさんの日本語教室』佐竹秀雄 (角川ソフィア文庫)
	『二十一世紀に生きる君たちへ』<論説文> 司馬 遼太郎	人間が生きていく上で欠かせない心構えについて、筆者からメッセージを送っている。	・ 話題発展型 ・ 語りかける文体 ・ 筆者からのメッセージ	『二十一世紀に生きる君たちへ』司馬遼太郎 (司馬遼太郎記念館)

※伝記やノンフィクションの文章については、系統上、説明的文章として位置付けられている教材のみを掲載。